

芝浦労働組合の成立

W T 生

日本の労働組合の歴史を論ずる前に、労働組合の最近の動向として古き組合が解體して新らしき組合を組織し、又は聯合合同と成りつゝ進んで行く事實を報じなくてはならないのである。今般芝浦製作所に新たに生れた芝浦労働組合の如き確かに此の新傾向の急先鋒とも稱す可きであると思ふ。

芝浦製作所は人も知る如く三千の職工を有し電機製作を以つて東洋第一といふ大工場であるが、この工場に於ける労働組合運動の情勢は如何なるものであるかと云ふに、大正元年友愛會の成立すると共に生れたる友愛會芝浦支部と大正八年十一月に成立した芝浦技友會との二つの組合が存在したのみであつた。勿論この外にも、労働和親會、日本労働聯合會、文藝労働義會、共済會等又最近に至つては機械技工組合、黒色労働組合の一部、東京職工組合の一分子の如き急進派もあつたが、兎に角芝浦を代表した労働組合は前記の二つであつた。

芝浦技友會は、一昨年三月争議を起したつたが、技友會が成立する最初にして會社の御用團體の如く誤解され安き點があつたので、友愛會芝浦支部は技友會の争議は友愛會芝浦支部を破壊するの目的を以て會社と共に誤り争議を起したものとあるとの見解の下に此の争議に参加しなかつた。其の結果として兩者の間に意圖の疎通を缺き相反するに至つた。

當時友愛會員は會員八百名を算し、技友會員は一千名を有して居つた。

斯の如く相反する二つの組合は其の今日に至つたのであつたが、昨年九月頃芝浦製作所の支配階級（資本家側の代表者例へば工務部長格）間に左遷されたものあるや會つて芝浦技友會の争議の際、會社側の御用を勤めたと稱されて居た。争議當時の技友會理事長松木某は直ちに左遷派に買収されて、左遷派中の會社に對する不満を引受け、彼等の御用人として再び或る運動を開始して、第二回の「芝浦の労働争議」を起さうとした。

然るに技友會の争議當時、直前に労働者の爲めに階級戦の第一線に立ちたる技友會の御用諸君は、松木某の爲めに散々な苦

芝浦労働組合

第一章 名称及目的

- 一、本組合は芝浦労働組合ト稱ス
- 二、本組合は個々、宣言、決議、遂行ヲ以テ目的トス
即ち二章 組合員及組織ト云
- 三、本組合員は芝浦製作所ニ現職スル日給従業者ヲ指スト
ト云フ
- 四、本組合ノ組織ハ一工場ヲ一分子ト爲ス如ク自治的ナル
モノトス

但シニ以上全同トシ一人分色トスナク

五、本組合ハ凡ノ委員会ヲ置ク

(四) 中央委員会